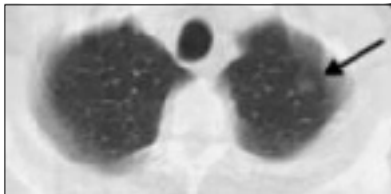


CTを使った 肺がん検診のはなし

- 15 -

「東京から肺がんをなくす会」(以下、「なくす会」)は、1975年に設立された日本で最初の会員制肺がん検診組織です。国立がんセンター呼吸器グループや肺がん専門医と東京都予防医学協会が協力して、肺がんのハイリスクグループを対象に年2回の検診を行ってきました。今年で満30年が経過したことになります。肺がんのハイリスクグループとは、つぎのような人たちが指します。40歳以上、多量の喫煙者(喫煙指数: 1日喫煙本数×年数=400以上)がんの家族歴あり。実際には、これらの条件を満たさなくても、「肺がんに関心の深いひと」の入会を認めています。ですから39歳以下のひとや、がん歴のないひとでも会員に含まれています。入会時の喫煙指数をみみると、400以上のひとが、83%を占めています。



ヘリカルCTで撮影した肺の断面。
(矢印ががんの病巣)

1993年9月世界に先駆けて、低線量らせんCTを、導入しました。このことによって、後に述べるように、検診成績は格段に向上しました。さらに2002年には、それまでのシングルヘリカルCT(SHCT)からマルチディテクターCTに機種へとグレードアップしました。それによって、検診精度はさらに高まりました。

「なくす会」の検診成績については、次号以下で詳しく紹介します。(以下、次号)

< 1面たばこシリーズの写真解説 >

図1 重症の歯周病

(中村正和監修『タバコは全身病 卒煙編』少年写真新聞社、2004から引用)

図2 アタッチメントロスと歯周ポケット形成

(埴岡隆: 喫煙の口腔への悪影響『月刊保団連』2000.12.No.688から引用)

漢方 入門

< 1 >



梅も漢方薬原料植物です

于 海 (Yu Hai)

漢方医学は整体(全体、全身)観念を主導思想とする医学理論です。

その理論では、人体は各臓器で繋がっている整体で、自然(季節、地域)と深く関係していると考えられています。

一方、治療方法に関しては、「治



「こぶし」春先、葉に先立って白い花が咲く。蕾を漢方薬辛夷(シンイ)の代用とする。

未病(まだ病気になる前と病気が進行する前に予防治療すること)」と

「弁証治療(病気の場所、原因、性質や患者の体質、症状および各段階の病理状態を分析し、総合的に判断し、治療すること)」の両段階に分けています。前者は免疫力、生活規律、環境、食事などを早めに改善すること。後者は一般的にいう病気治療です。また「病気の発生、進行及び転帰は、時(季節)、地(地域)、人(体質、性別、年齢)により異なるので、具体的な治療方法が違う」と考えています。

例えば、夏と冬の風邪に対し、漢方医学は違う原因を考えるため、治療方法と薬が異なります。一方、子どもへの投与薬量が年齢と体重により変わるという点では、西洋医学と東洋医学は同じです。(続く)

エキスパートの社会性

つばい えいたか

坪井 栄孝

慈山会医学研理事長
元日本医師会会長

1970年の初頭、肺がんグループのメンバーが胸壁に密着した穹窿影(きゅうりゅうえい:半球形をした影)に出会い、それがアスベスト吸入による中皮腫で、石綿鉱山労働者の職業病であることを話題にした。一部の医学者は、アスベストが建設用材として製品化された時の住民被害は社会問題であると警告したが、経済優先の当時の社会背景の中では埋没せざるをえなかった。当時、世界一のアスベスト生産

国であったカナダでも、医師たちの警告は抑圧され、社会的警告とはならなかった。ところが、フランス科学者のアスベスト有害論が同国内で強力にアピールされ、さらにカナダの専門家との間に論争が起きると、世界中でアスベスト有害論が支持され、社会問題化すると、ようやく職業病としてではなく社会的リスクとして騒がれ出した。

科学者は、自己の専門領域の研究結果の先見性と、視野の広い社会性を世に問う勇氣を持たないと、人類の生存に貢献できないことがしばしば起きることを自覚しておくべきである。原子核の操作が殺戮兵器を造ってしまった愚行はその典型である。頭脳がハートの波を乱してはいけないとまでいっていた高名な物理学者までが、この愚行に加担してしまったのだ。

遺伝子操作でその愚かさを繰り返しかねない現状をおそれながら、エキスパートたちの人間性に私は期待するしかない。世界医師会には「医の倫理が法を超えなければならなくなることもある」ことを覚悟して、科学者たちの勇氣を促した決議がある。

今の日本は、アメリカイデオロギーに感染して、経済が政治を呑み込んでしまっている。社会保障まで侵蝕されはじめ、その中では医の倫理などという青臭い論旨を顧みない見識などまったく持ち合わせていない。こんな時代だからこそ、科学者すべてが、人類愛を基調にした強い倫理観を持って学問に携わるべきであり、広い視野の社会観を持って自己評価のできる人間形成を心がけるべきであると思っている。「日本医事新報」No.4264 (2006年1月14日)より抜粋



ブラックレーク(カナダ・ケベック)は、湖の岸と湖床に鉱石が発見され、湖水を灌漑して採掘された露天掘りの石綿鉱山である。

(=写真 WS&H Asbestos Database HPより)